【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成26年6月19日(2014.6.19)

【公開番号】特開2012-232022(P2012-232022A)
【公開日】平成24年11月29日(2012.11.29)
【年通号数】公開・登録公報2012-050
【出願番号】特願2011-103679(P2011-103679)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｈ　3/46　(2006.01)
Ａ６３Ｈ　3/36　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｈ　3/46　A
Ａ６３Ｈ　3/36　C
Ａ６３Ｈ　3/36　D
Ａ６３Ｈ　3/36　G

【手続補正書】
【提出日】平成26年4月24日(2014.4.24)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
また、本発明は、前記いずれかの関節構造において、溝部が通孔を囲む環状のものである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
また、本発明は、前記いずれかの関節構造において、関節が首関節、肩関節、肘関節、手首関節、股関節、膝関節又は足首関節のものである。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２６】
先ず、胴部材１の両肩部分に形成された略球面状凹部５の溝部８に滑止具３を嵌め込む。この時、溝部８の開口幅よりも滑止具３の直径が大きいため、弾力性を有する滑止具３を変形させながら溝部８に押し込む。次に、胴部材１に対して弾性体４を一方の略球面状凹部５に形成された通孔７から中空部６を跨いで他方の略球面状凹部５に形成された通孔７へ渡すように通す。次に、胴体部１の一方の略球面状凹部５に形成された通孔７から飛び出した弾性体４の一端を一方の腕部材２の略球面状凸部１０に形成された通孔１２から中空部１１へと通して中空部１１内に固定された掛止具（図示せず）に引っ掛ける。この時、胴部材１の一方の略球面状凹部５に一方の腕部材２の略球面状凸部１０が嵌り込んだ状態となる。次に、胴体部１の他方の略球面状凹部５に形成された通孔７から飛び出した弾

性体４の他端を他方の腕部材２の略球面状凸部１０に形成された通孔１２から中空部１１へと通して中空部１１内に固定された掛止具（図示せず）に引っ掛ける。なお、弾性体４は引っ張った状態を維持し、そのままの状態で弾性体４の他端を掛止具に引っ掛ける。この時、胴部材１の他方の略球面状凹部５に他方の腕部材２の略球面状凸部１０が嵌り込んだ状態となる。これにより、胴部材１と両腕部材２が弾性体４によって互いに牽引された状態となる。